

# 全学教養科目特別講義（海外研修）のふり返し報告書

記入 | 2016年 9月

所属 & 学年 | 農学部 2年生

留学先（国名）	ガジャマダ大学（インドネシア共和国）
科目名	インドネシア現代事情とグローバル学習・海外研修
海外での学習期間	2016年8月9日～8月24日

## 1. 履修のきっかけや動機

海外に行ったことがなく、学生のうちに一度は海外渡航を経験して、自分の世界を広げたいと思っていました。名大の海外留学プログラムなら、用意されたプログラムから自分の目的に合った海外研修を選べるし、経済面や危機管理面でのサポートも充実していて、海外が初めての私でも安心感がありました。その中でもテーマに興味があったので、このインドネシア現代事情を履修することに決めました。私はもともと環境問題に興味があり、テーマのひとつである「海岸・沿岸の環境」という言葉に強く惹かれたのです。海外で実際に現地の様子を見ながら、様々な国籍の学生たちと興味のあることについて勉強ができるということは、めったにない貴重な機会であり、自分の成長につながるチャンスだと思いました。また、色々調べるうちに、インドネシアは自然豊かな島国ですが、森林減少などの環境問題も著しいということを知り、さらに興味が増しました。

また、もう一つの理由として、英語を話すことができるということがありました。私は普段、日常的に英語を話すことが少ないので、海外に行ってきたたくさんの外国人と英語で話す、ということはとても刺激になるし、自分の今の英語力を確かめられる良い機会になると思ったのです。英語という言語を学ぶのではなく、英語を使って自分の興味のあることについて学べる、という点がより実践的でよかったです。

## 2. 名古屋と海外での学習で学んだこと

私は、海洋・沿岸の環境について特に学びたかったので、個人テーマを「インドネシアにおける住民とマングローブの関係の現状」として、インドネシア沿岸に生育するマングローブに視点を置いて事前学習を進めました。マングローブは沿岸域という特徴的な生育環境において、海と陸をつなぐ重要な役割をしていることがわかりました。しかし、近年は主にエビの養殖池造成のために、伐採され、減少しており、深刻な環境問題になっています。マングローブの保全が海洋・沿岸の環境保全に不可欠であることを学びました。

インドネシアでの研修中には、インターンシップでマングローブの植林をしている団体を訪問し、実際にマングローブ林を観察したり、植林を体験したりさせていただきました。マングローブ林の役割が尊重され、保全活動が活発に行われていることがわかりました。

また、ホームステイした村の浜辺には、捨てられたゴミをリサイクルして作られた様々な作品が飾られていました。ボランティアで村中のゴミを集め、中央集積場へ運ぶお仕事をされている人たちがいました。このプロジェクトが始められる前までは、ゴミは各家庭で燃やされたりしていたので、その時に出る有害物質が問題でしたが、今はその問題も少なくなり、より良い環境になったそうです。現地での環境問題に対する意識は強く、工夫した取り組みがなされていることがわかりました。

### 3. 海外研修中での生活で学んだこと

最初はなかなか英語が出てこず、うまく伝えられなかったりして苦労しました。しかし、慣れてくると、英語で会話することが楽しくなってきました。文法などはぐちゃぐちゃだし、流暢とは程遠いスピーキング能力ですが、恥ずかしがらずに英語で話し、伝えようとする努力が大切だと思いました。相手に伝わり、わかってもらえると、とても嬉しかったです。また、同じ英語でも国によって話し方やスピード、発音に違いがあることに気づきました。簡単な単語 1 つでも発音だけではわかってもらえず、スペルを言いあつてようやく理解する、ということも多々ありました。でも皆さんとても優しく、うまく伝えられない時でも、わかるまで辛抱強く聞いてくださいました。相手を思いやる大切さを学びました。

また、ホームステイをした村は、お湯も出ないし、電気も不安定だったりして、市内と比べるとけっして恵まれた環境ではありませんでしたが、村人たちは皆とても仲が良く、幸せそうでした。見知らぬ外国人であるはずの私たちに会おうと必ず微笑んでくれたり、手を振ってくれたり、皆さんとてもフレンドリーでした。私は自給自足しながら、平和に暮らしているこの村が大好きになりました。私たちはより発展した、便利で豊かな生活をさせてもらっているはずなのに、それが当たり前になってしまっていて、時には今の環境にも満足できずに不足を言ったりすることもあります。恵まれた環境に感謝するとともに、発展している方が良いということはけっしてない、ということに気づかせてもらいました。

### 4. 渡航や危機管理について気を付けたこと、気づいたこと

お腹をこわすことは当たり前だと言われていたので、体調面は特に心配していました。普段はいたって健康で薬など飲まない私ですが、海外の慣れない生活に順応できるかはわからないし、海外の薬は日本のものと成分が違ったりして体に合わないことがあると聞いていたので、何種類か用意して持って行きました。風邪薬、整腸剤、下痢止め、解熱鎮痛剤、酔い止め、ビタミン剤などです。空港で何か聞かれたときのために、すべての薬の英語名を調べ、箱や袋に書きました。幸いにも、薬が必要になることはなく、一度お腹の調子を少しくずした以外は、ほぼ毎日元気でした。

水には注意が必要なので、私は食事のとき、生野菜や氷を避けていました。また、うがいをするときもミネラルウォーターを使い、水道水が体に入らないように注意していました。時と場合によっては、生野菜や氷を食べてみたこともありましたが、大丈夫でした。弁当などは常温でしばらく置かれてあったものだったりするので、特に注意した方が良いと思いました。除菌ジェルやウェットティッシュを常に持ち歩き、食事の前には必ず手を消毒するようにしました。

蚊の媒介による伝染病も怖いので、虫除け、ムヒも常に持ち歩きました。外に出るときは虫除けを必ずしました。人にもよるかと思いますが、ジョグジャカルタ市内では、全然蚊に刺されることがなかったです。ホームステイをした村で、数カ所刺された程度でした。蚊よりもハエの方が多かったように思います。食事のときはよくハエが来ました。もう慣れてしまって、ハエがとまっても平気で食べていました。私は市販の虫除け以外に、ハッカ油とエタノールで手作りの虫除けを作って持って行ったのですが、これは虫除けになるだけでなく、制汗剤や臭い消したいな感じでも使えて結構万能でした。

スリ対策としては、いつも持ち歩くカバンは肩掛けショルダーにして、ジッパーを閉め、常に自分の前になるように持ちました。現金は3つに分けて入れていました。

パスポートを無くしたときに必要になる書類、写真、現金をまとめて封筒に入れて持って行きました。

私は行きの空港でまさかのロストバゲージをしてしまいました。機内持ち込み荷物に 1 日分の着替えは入っていたので、なんとか 1 日はやり過ごすことができました。本当に起こる可能性はあるので、侮らずに用意することは必要だと思いました。幸い、次の日の夜にスーツケースが戻ってきたので、大丈夫でしたが、私はコンタクトなども機内持ち込みに入れておけばよかったと思っています。

5. 研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考	支払方法
航空運賃&ビザ申請料	92410 円		振込
海外旅行保険	16140 円		"
授業料	80794 円		海外送金（米ドル）
滞在費（寮費など）	円	授業料に含まれる	
食費	1300 円		現金 1300 円、カード 0 円
交通費	1000 円		
その他（小遣い、通信費など）	22000 円		現金 22000 円、カード 0 円
<b>計</b>	<b>約 21 万円</b>		

※現地通貨はいくら持参しましたか？ 43000 円

自由記述欄 \* 現地のおすすめ情報やエピソードなど自由に記述して下さい。写真添付も歓迎します。

※写真を「写真でつづる留学ストーリー」に応募してもよろしいですか？ はい いいえ

↓↓↓

右の写真は私がホームステイした家の外観です。  
黄色い家で、イエローハウスと呼んでいました。  
インドネシアではカラフルな家が多く見られました。



ホームステイ先の村の浜辺にドラえもんが！  
思わず撮ってしまいました。  
「PINTU KEMANA SAJA」はインドネシア語で  
「どこでもドア」です。



最後のセレモニーは、海が見えるレストランで。  
とてもリッチな気分を味わいました。  
夕日がきれいで感動しました。



# 全学教養科目特別講義（海外研修）のふり返し報告書

記入 | 2016年 9月

所属 & 学年 | 情報文化学部 2年生

留学先（国名）	ガジャマダ大学（インドネシア共和国）
科目名	インドネシア現代事情とグローバル学習・海外研修
海外での学習期間	2016年8月9日～8月24日

## 1. 履修のきっかけや動機

様々な国の学生とともに学ぶことが出来る点が魅力的であった。もともと行ってみたいと思っていた地域であったし、フィールドワークのスタイルも今後の専門の学習に生かせるかもしれないと思ったから。

## 2. 名古屋と海外での学習で学んだこと

インドネシアは想像していたよりもずっと多様性に富んでいて、インドネシアの人もそれを誇りに思っていた。細かいことは書き出すときりが無いが「多様性」に集約されると思う。

## 3. 海外研修中での生活で学んだこと

日本の感覚がグローバルスタンダードではないことを日々実感した。私たちの感覚ではいい加減だと思っても、それでも社会は回るのだから精神的余裕を持つべきだと思った。あとは分からないことは躊躇せず分かるまで聞くこと。

## 4. 渡航や危機管理について気を付けたこと、気づいたこと

貴重品、特にパスポートとクレジットカードには常に細心の注意を払っていた。繁華街ではカバン(ショルダーバッグ)から手を離さないようにしていた。トイレに手洗い場がない所が多かったので、食事以外でもウェットティッシュや除菌ジェルを常に持ち歩いていた。

## 5. 研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考	支払方法
航空運賃 & ビザ申請料	137000 円		振込
海外旅行保険	20000 円		"
授業料	80000 円		海外送金 (米ドル)
滞在費 (寮費など)	円	授業料に含まれる	
その他 (小遣い、通信費など)	40000 円	ポケット Wi-Fi 等	現金 円、カード 円
<b>計</b>		<b>約 28 万円</b>	

※現地通貨はいくら持参しましたか？ 25000 円分

自由記述欄 \* 現地のおすすめ情報やエピソードなど自由に記述して下さい。写真添付も歓迎します。

色移りをするものが多いので、現地で服 (特に染物) を買ったなら着る前に洗濯をした方がよい。水にほんのり色がつく位染料が出たものもあった。

現地で両替したほうがレートはかなり良いので日本でそこまでたくさん両替していなくても良かったなと思う。